

二〇一〇年一月二日

匂い立つ水仙峡の急坂に ひかり  
 鴨の引く光の水尾や池鏡 " "  
 海風やなだるごとく水仙花 " "  
 ちぬの海四温の日差しはじきをり " "  
 冬晴の大樹鳥語の賑々し " "  
 霜柱地球を少しもちあげし よし子  
 小雪ふる美容室客吾一人 " "  
 仏飯の干からびてをり寒の入 " "  
 しぶしぶと炬燵から出る電話口 " "  
 若者に座席譲られ温かし 百 姓  
 積雪に枝たはみたる大樹かな " "  
 占いの館を抜けて初参り " "  
 春を待つ花のクロスに取り替へて 菜 々  
 蠟梅や四十七士の墓訪へば " "  
 姫宮へ寒禽さはぐ男坂 " "  
 寒入り日雑木林の丘の上に きづな  
 そそくさと終る読経や寒仏間 " "  
 余念なき菜畑の手入れ四温晴 " "

お年玉喜ぶ顔に悦こべり 宏 虎  
 初日の出波金鱗の夫婦岩 " "  
 凍雲に日箭一瞬の茜さす わかば  
 盆梅や花芽の立つを見逃さず " "  
 煌めくは大パノラマの冬の沖 ぼんこ  
 一湾をまたぐ白雲冬の晴 " "  
 吉兆のごと夕映ゆる春の海 小 袖  
 竹筒の緑がよるし屠蘇祝ふ " "  
 寒雀連鎖反応木から木へ こすもす  
 絵手紙の余白に健と寒見舞 満 天  
 獅子舞の頭はずせば美少年 " "

定例会の選

二〇一〇年一月二日